

2023年8月2日

報道関係者各位

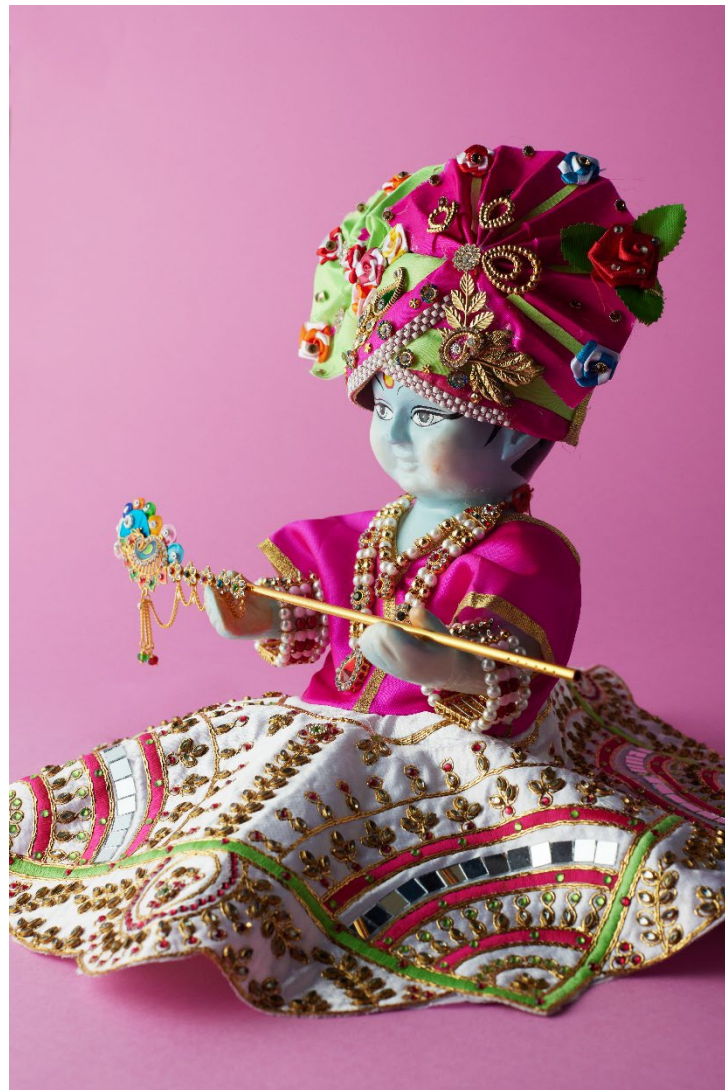
特別展「交感する神と人―ヒンドゥー神像の世界」

Special Exhibition

Divine Affection: Enchanting Images of Hindu Deities

2023年9月14日(木)～12月5日(火)

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では特別展「交感する神と人―ヒンドゥー神像の世界」を2023年9月14日(木)から12月5日(火)まで開催します。



パール・ゴーパール(幼子クリシュナ)

撮影: 増田大輔 撮影協力: 株式会社エスパ

多神教で知られるヒンドゥー教の神がみは、さまざまな素材でつくられた神像によって人びとの前に姿を現しています。人びとは神像を沐浴させたり、着飾らせたりといった具体的な働きかけをとおして神像をいとおしみ、神に願いを届けようとします。

この特別展では、インド、ネパールだけでなく日本やヨーロッパでつくられた多彩なヒンドゥー教の神像を展示するとともに、神と人との交流の姿を紹介し、人びとが神がみにささげる愛や願いのかたちに迫ります。

■展示概要

ヒンドゥー教のあまたの神がみは、石や金属、土器、陶器などの立像、仮面、絵画や印刷物、タイル、刺繍、さらには絵本、コミック、切手やシールなど、さまざまなモノを通じて現れています。これらの神像は人びとが五感を通じて神と交流するための重要な媒体となってきました。

神像との交流の核心には神への「愛」があります。この「愛」には神に愛されるという受動的側面よりも、人が神に愛をもって接近するという能動的、主体的側面が強く表れています。人びとはさまざまな神話を踏まえながら、親がいたずらな子を愛おしんだり、愛人が相手を熱烈に愛したり、あるいは忠実なしもべが主人に無償の奉仕をするように、神像に具体的に愛を捧げます。また、日常的な礼拝においても実際に神像を沐浴させたり、着飾らせたりするなど具体的な働きかけを通して神像を歓待し、願いを聞き届けて貰おうとします。

本特別展ではこの「神への愛」に基づいた、神と人との交流のさまざまなかたちの展示を中心にすえます。具体的には現代インドで特に人気のある神がみの神話を表現した図像の展示や神像への働きかけ方がわかる資料（神像の個別的なデコレーション、身体的感覚が発揮される儀礼用具などの展示や、儀礼の実際を取材した映像や写真など）を展示します。それらを通じて、多神教的なヒンドゥー教世界や、そこに登場する弱みや欲望も合わせもった神がみの存在を紹介します。

こういった神像はインドやネパールだけではなく、日本やヨーロッパでも制作され、ヒンドゥー教の世界で用いられていました。この特別展では南アジアの外の世界で作られた神像も展示し、信仰に関わるモノのグローバルな流通の一端も紹介します。

■展示構成

- | | | |
|----|----------------------------|---|
| 1F | 第1章
<u>神がみの世界へのいざない</u> | |
| | 第2章
<u>神がみとの交感</u> | 1) ラーマやクリシュナとの交感
2) シヴァやドゥルガー女神との交感
3) 交感を行うための祭壇 |
| | 第3章
<u>交感の諸相</u> | 1) つくる
2) 飾る
3) 見かわす
4) 対話する
5) 演じる
6) 暮らしの中の神がみ |
| 2F | 第4章
<u>ときの巡り</u> | 1) 春を迎える
2) 雨季の祭礼
3) 秋の祭礼
4) 秋の実りを祝う
5) 寒季の祭礼 |

■資料点数 約 600 点

■展示の見どころ

1. 多種多様な神がみの姿を紹介

本館所蔵資料、福岡アジア美術館をはじめとする協力美術館所蔵のコレクションなどから、600点余りの神像や関連資料を展示します。石像、真ちゅうや銅像、テラコッタ、陶器やタイル、仮面、絵画、ポスター、布絵、刺繍、絵本、コミック、切手、シール、商標、カレンダー、カードゲームなどに現れた、ときに荒々しく、ときに愛らしい多様な神がみの姿が集合します。



パール・ゴーパール(幼子クリシュナ)

2. 多彩な神がみの飾りもの

人びとは神への働きかけとして、神像を思い思いのデザインや方法で飾ります。飾り物には手作りのものも市販品もありますが、神像を一種の「着せ替え人形」のように着飾らせたり、ポスターや絵にスパンコールや布を貼り付けたりして、神への愛を表します。多彩でかわいらしい飾り物に込められた神への愛を紹介します。

また祭礼用につくられたドゥルガー女神像やガンゴール女神像などの装飾、神話を演じる舞踊劇用の仮面とコスチュームの飾りつけなども見どころです。



ドゥルガー女神及びラクシュミー女神、サラスヴァティー女神、ガネーシャ、カールッティケーヤ、マヒシャ

3. 五感を通じた神がみとの交流の体験

特に視覚を通じた交流(神と視線をしっかりと交わせるように現れている、眼が強調された神や3Dポスターの神がみの像)、聴覚を通じた交流(寺院で取材した現場の音源、インドの寺院で使われている打楽器装置の演奏)を展示場で体験して、五感を通じた神がみとの交流の一端を実感できます。



自動打楽器装置

4. 日本製タイルやマッチ絵に描かれたヒンドゥー神像

20世紀前半には日本の陶器会社やマッチ製造業者はインドに盛んにタイルやマッチを輸出していました。マッチ箱のラベルにヒンドゥー神像のデザインが用いられていたことは既に他の美術館等でも紹介されています。一方、日本製タイルにもヒンドゥー神像が描き出されインドで流通していたことはあまり知られていません。今回の展示では、協力美術館や実行委員のコレクションから、タイルの現物とその金型、カタログを日本（おそらく世界でも）で初めてセットで展示し、知られざる日本とインドのモノを通じた交流の姿を紹介します。



マジョリカタイル(サラスヴァティー)
／個人蔵

5. AR でガネーシャと交流

スマートフォンに大きなガネーシャ(象の頭を持った幸福の神)像を呼び込み、ガネーシャにバーチャルにお供えをしたり、ガネーシャをバックに自撮り写真を撮ったりできるAR体験コーナーを設けます。バーチャル空間で神像と交流する体験を楽しめます。



環境に配慮したガネーシャ像
※画像はイメージです。

6. 映像を通じた祭礼や儀礼の紹介

後半ではときの巡りにそった祭礼や儀礼を展示します。人びとが年間を通じてさまざまな神話を再現し、神がみに祈りをささげていることを紹介します。このコーナーにはインドで取材した映像を上映するスペースを設け、祭礼の現場の姿にも迫ります。



イサ(シヴァ)と
ガンゴール(パールヴァティー女神)

■関連イベント

※各イベントの申込み方法や詳細につきましては、みんなくホームページをご確認ください。

研究公演

「バジャン—神々に捧げる信愛の詩^{うた}」

会 場	みんなくインテリジェントホール(講堂)
日 時	9月23日(土・祝) 13:30～15:50 (13:00開場)
出 演	ミーター・パンディット(北インド古典音楽声楽家、Somaia大学教員)、 林怜王(タブラー奏者)、ナカガワユウジ(サーランギー奏者)
司 会	三尾稔(国立民族学博物館 教授)、虫賀幹華(京都大学白眉センター 特定助教)
解 説	田中多佳子(京都教育大学 教授)
定 員	400名
参加方法	事前申込制(先着順)／要展示観覧券(イベント参加費は不要)
内 容	音楽はヒンドゥー教徒の祈りの場に欠かせないものです。神を描写し讃える詩を詠み、 美しい旋律にのせて神への愛を表現します。本公演では、バジャンという宗教歌の実 演をとおしてヒンドゥーの信仰の姿を紹介します。

ワークショップ

「ヒンドゥー教の讃歌『バジャン』を歌ってみよう」

会 場	みんなくインテリジェントホール(講堂)
日 時	9月24日(日) 14:00～15:30 (13:30開場)
講 師	三尾稔(国立民族学博物館 教授)、ミーター・パンディット(北インド古典音楽声楽家、 Somaia大学教員)、虫賀幹華(京都大学白眉センター 特定助教)、 林怜王(タブラー奏者)
定 員	30名(高校生以上)
参加方法	事前申込制(先着順)／参加無料
内 容	神と人との交流手段として神への讃歌は重要な役割を担ってきました。讃歌にこめられた 意味をまなび、実際に歌い、ヒンドゥー教の世界を体感します。

「インドの日常の祈り^{コラム} 床絵を描く」

会 場	特別展示館地下休憩所(BF)
日 時	10月9日(月・祝) 13:00～16:15 (12:30開場)
講 師	三尾稔(国立民族学博物館 教授)、永田郁(崇城大学 教授)、 安森大樹(ルーテル学院高等学校 非常勤講師)
定 員	15名(小学校3年生以上)
参加方法	事前申込制(先着順)／参加費500円
持 ち 物	汚れてよい服装、汚れてよいタオル
内 容	床絵は神を家に招き入れるために描かれ、インド各地の庶民の家庭では神との交流の重 要な手段です。インドでつかわれる色の粉をつかい、床絵を描きます。

みんなくウィークエンド・サロン——研究者と話そう

研究者が展示や研究についてお話しします。

「神になる人びと——南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀」

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	10月1日(日) 14:30～15:00
話 者	竹村嘉晃(平安女学院大学 准教授)、 三尾稔(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)



寺院関係者に誘導されるヴァイナート・クラヴァン神

「『交感する神と人』の『場』としての寺院の様相」

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	10月8日(日) 14:30～15:15
話 者	永田郁(崇城大学 教授)、 三尾稔(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)



Bhairavakonda石窟での参詣の様子

「神がみを演じる——ネパールの仮面舞踏」

会 場	本館展示場(ナビひろば)
日 時	10月15日(日) 14:30～15:30
話 者	北田信(大阪大学 教授)、 南真木人(国立民族学博物館 教授)
定 員	なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法	要展示観覧券(イベント参加費は不要)



ポカラのバイラヴ仮面舞踊

「神を飾り、愛でる——ヒンドゥー神像の衣装選び」

会 場 本館展示場(ナビひろば)
日 時 10月22日(日) 14:30～15:00
話 者 福内千絵(大阪芸術大学 非常勤講師)、
南真木人(国立民族学博物館 教授)
定 員 なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法 要展示観覧券(イベント参加費は不要)



生誕祭でドレスアップした幼子クリシュナの神像

「神がみとかかわる方法あれこれ」

会 場 特別展示館
日 時 11月5日(日) 14:30～15:15
話 者 三尾稔(国立民族学博物館 教授)
定 員 なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法 要特別展示観覧券
(イベント参加費は不要)



寺院で神への讃歌の会につどった人びと

「戦前期日本でつくられた『ヒンズー神像』の足跡をたどる」

会 場 特別展示館
日 時 11月12日(日) 14:30～15:00
話 者 豊山亜希(近畿大学 准教授)、
上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)
定 員 なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法 要特別展示観覧券
(イベント参加費は不要)



日本製タイル絵(ホーリーを祝うクリシュナ)が
張られたインドの住宅

「人と神をつなぐ刺繍布——戸口飾り布トーラン」

会 場 本館展示場(ナビひろば)
日 時 11月19日(日) 14:30～15:15
話 者 上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)
定 員 なし(ご自由に参加いただけます)
参加方法 要展示観覧券(イベント参加費は不要)



手刺繍とデジタル刺繍布との組み合わせ
によるトーラン

みんなくゼミナール

「暮らしの中に現れる神がみ——現代ヒンドゥー教徒の生活の場から」

会 場 みんなくインテリジェントホール（講堂）
日 時 10月21日（土）13:30～15:00（13:00開場）
講 師 三尾稔（国立民族学博物館 教授）
定 員 400名
参加方法 事前申込制（先着順）／参加無料
内 容 多彩な像に現れるヒンドゥー教の神がみは、願いをかなえる存在として人びととともに「生きて」います。神像が生活の場で用いられる姿を紹介し、現代ヒンドゥー教徒の暮らしや世界観に迫ります。



ガネーシャ神に食事を食べさせる（2012年）

みんなく映画会

「ガンジスに還る」

会 場 みんなくインテリジェントホール（講堂）
日 時 11月3日（金・祝）13:30～16:00（13:00開場）
上映作品 「ガンジスに還る」
司会・解説 三尾稔（国立民族学博物館 教授）
定 員 350名
参加方法 事前申込制（先着順）／
 要展示観覧券（イベント参加費は不要）
内 容 北インドの地方都市の中流家庭の老年男性ダヤはある日突然死期を悟ります。彼は死後の解脱が得られるとされる聖地ワラーナシー（ベナレス）での安らかな死を願い、同じ願いをもつ人びとが死を待つ宿泊施設で最後の日々を送ることを決心。ダヤの家族はこの決心に翻弄され、それぞれの立場で俗世のしがらみと折り合いをつけながら、何とかこの決心をかなえようとします。映画はダヤ、その息子ラジーヴと妻子、宿泊施設の人びとの織りなす人間模様を丁寧に追い、現代インドのヒンドゥー教徒の死生観や家族の葛藤をリアリティをもって描き出します。本作品はインド内外で高い評価を得ており、2016年ヴェネチア国際映画祭エンリコ・フルキニョーニ賞をはじめ、多数の賞を受賞しています。



©Red Carpet Moving Pictures

友の会講演会

【大阪】

「ヒンドゥー神像の美と信仰——飾りつけをめぐる」

日 時 12月2日（土）13:30～15:00（13:00開場）
講 師 福内千絵（大阪芸術大学 非常勤講師）
聴講方法 ①本館 第5セミナー室（定員90名）
 ②オンライン（ライブ配信）※オンラインは会員限定
参加方法 オンライン聴講ならびに友の会会員以外の方のご参加には
 事前申込（先着順）が必要です。
 友の会会員：無料、一般（会場参加のみ）：500円
 友の会ホームページ内、友の会講演会受付フォームより
<https://www.senri-f.or.jp/543tomo/>

お問い合わせ 国立民族学博物館友の会（千里文化財団） 06-6877-8893
内 容 ひろく信仰の場において、礼拝像に対する「飾りつけ」の行為がみられます。ヒンドゥー教の信仰実践においても、神像への飾りつけは重要な一角を占めています。しばしば過剰に感じられるほど華やかに、そして香しく施される装飾。本講演では、祭礼時の神像装飾の具体例を紹介し、香りの体験を交えながら、飾りつけが喚起する美と神と人との関係に迫ります。



宝冠や衣装で華やかに着飾った祭壇の神像（撮影・福内千絵、2010年）

【東京】

東京講演会「神になる人びと——南インド・ケーララ州のテイヤム祭祀」

日 時 9月17日（日）13:30～15:00（13:00開場）
講 師 竹村嘉晃（平安女学院大学 准教授）
聴講方法 モンベル渋谷店5階サロン（東京都渋谷区宇田川町11-5）
 （定員50名）
参加方法 友の会会員以外の方のご参加には事前申込（先着順）が必要です。
 友の会会員、モンベルクラブ会員：無料、
 一般（会場参加のみ）：500円
 友の会ホームページ内、受付フォームより
<https://www.senri-f.or.jp/135tokyo/>

せ 共 催 国立民族学博物館友の会（千里文化財団） 06-6877-8893
 株式会社モンベル
内 容 南インド・ケーララ州北部のヒンドゥー世界では、不可触民男性の身体を介して村人の前に顕現する神霊（テイヤム）を祀った祭儀が盛んにおこなわれています。本講演では、祭儀空間で神霊と交感する村人の様子にふれながら、カーストの伝統的職業として神霊の役割を世襲的に受け継いできた不可触民たちの今日の姿を紹介します。



寺院関係者に連れられるヴァイナーットウ・クラヴァン神（撮影・竹村嘉晃、インド・ケーララ州、カンヌール、2019年）

■開催概要

展覧会名	特別展「交感する神と人―ヒンドゥー神像の世界」
会場	国立民族学博物館 特別展示館
会期	2023年9月14日(木)～12月5日(火)
開館時間	10:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日	水曜日
観覧料	一般 880円 (600円)、大学生 450円 (250円)、高校生以下無料 ※本館展示もご覧いただけます。※入館当日はチケット半券で再入場できます。 *()内は、20名以上の団体、大学等(短大・大学・大学院・専修学校の専門課程)の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金(要証明書等)。 *障がい者手帳をお持ちの方は、付添者1名とともに、無料で観覧できます。
主催	国立民族学博物館
特別協力	福岡アジア美術館
後援	在大阪・神戸インド総領事館
協力	INAXライブミュージアム、株式会社 Danto Tile、公益財団法人千里文化財団、多治見市モザイクタイルミュージアム

＜実行委員会＞

実行委員長 三尾 稔 (国立民族学博物館 教授)

インド西部を調査地として、1980年代末から庶民の信仰や信仰にかかわるおこないと社会変化に関する文化人類学的な研究をおこなってきた。近年は地域社会の維持や変容と都市の祭礼文化の関係について調査を行っている。人間文化研究機構「グローバル地域研究プログラム」、同プログラムのもとで展開している「環インド洋地域研究プロジェクト」双方の総括代表。主な編著書に『南アジアの新しい波』(上下2巻。昭和堂。2022年)、『現代インド6環流する文化と宗教』(杉本良男との共編著。東京大学出版会。2015年)などがある。



実行委員 ※氏名は五十音順

五十嵐理奈(福岡アジア美術館 学芸員)
上羽陽子(国立民族学博物館 准教授)
北田信(大阪大学 教授)
竹村嘉晃(平安女学院大学 准教授)
豊山亜希(近畿大学 准教授)
中尾智路(福岡アジア美術館 学芸員)
永田郁(崇城大学 教授)
福内千絵(大阪芸術大学 非常勤講師)
南真木人(国立民族学博物館 教授)
虫賀幹華(京都大学白眉センター 特定助教)

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
Tel:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト:<https://www.minpaku.ac.jp/press>

特別展「交感する神と人ーヒンドゥー神像の世界」 広報用画像リスト



【1】特別展チラシ



【2】パール・ゴパール(幼子クリシュナ)



【3】ドゥルガー女神及びラクシュミー女神、
サラスヴァティー女神、ガネーシャ、
カールッティケーヤ、マヒシヤ



【4】環境に配慮したガネーシャ



【5】イサ(シヴァ)と
ガンゴール(パールヴァティー女神)



【6】バイラブ仮面舞踊装束



【7】版画に装飾を施した神像(モーヒニー)



【8】ドイツで作られた版画(ラーマ)



【9】神像が使われたゲームカード
(ガンジーファ)



【10】マジョリカタイル(サラスヴァティー)

これらの広報画像はデータにて提供可能です。

ご入り用の画像があれば、総務課広報・IR係まで次頁申込用紙にてお申し込みください。

資料名につきましては、展示場での表記と異なる場合がございます。

特別展「交感する神と人ーヒンドゥー神像の世界」

広報用画像利用申込用紙

【ご希望の画像番号】

--

【貴社・貴機関について】

貴社・貴機関名	媒体名
ご担当者名	所属部署
所在地 〒	
電話番号	E-mail
ご掲載・放映の予定日 年 月 日	

【プレゼント用招待券】（ご希望の場合はどちらかにチェックを入れてください）

☐ 3組6枚 ☐ 5組10枚

※チケット発送先が上記所在地と異なる場合は、下記にご記入ください。

発送先 〒

【申込先】

E-mail koho@minpaku.ac.jp または Fax 06-6875-0401

【広報に関するお願い】

■ 写真使用に関するお願い、注意事項

クレジットには次のとおり記載してください。

- ・【2】【3】【5】【6】（撮影：増田大輔 撮影協力：株式会社エスパ）国立民族学博物館蔵
- ・【4】国立民族学博物館蔵
- ・【7】福岡アジア美術館蔵
- ・【8】【9】黒田豊コレクション
- ・【10】（撮影：増田大輔 撮影協力：株式会社エスパ）個人蔵

・写真（画像）の過度なトリミングや文字乗せはご遠慮ください。

・作品写真の使用目的は、本展の紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

■ 本館の基本情報等の確認のため、E-mail または Fax にて、掲載記事、番組内容の原稿等を下記連絡先までお送り願います。

■ お手数ですが、掲載紙・誌または録画媒体を2部お送りください。

【お問い合わせ・送付先】

国立民族学博物館 総務課広報・IR 係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
Tel：06-6878-8560（直通） Fax：06-6875-0401 E-mail：koho@minpaku.ac.jp